

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：奈半利川の濁水対策について		
水系/河川名：奈半利川水系奈半利川	河川分類：中小河川	
河川の流域面積：311.3km ²	整備計画流量：2.1m ³ /s(W=1/50)	セグメント：0
事業：その他	事業開始年度：平成28年度	
目標設定：定量的	段階：D(実施・施工時)	
課題・目的(主な)：流下能力の確保、水環境改善、縦断的連続性の保全・再生・創出		
工法(主な)：その他		
配慮事項(主な)：河川景観への配慮、歴史・文化への配慮		

背景・課題、目標設定

〈背景〉

奈半利川水系奈半利川は、高知県の東部に位置する、4町村を流れる2級河川である。上流部には、電源開発株式会社により発電用の利水ダムが3基設置されている。また、この地域は日本有数の多雨地帯であり、頻繁に大規模な豪雨に見舞われている地域でもある。

上流域では、林業の衰退による山地荒廃が進み、洪水時に濁水が発生すること、また、その濁水がダム湖に流れ込むことにより長期的な下流河川の濁りの発生が大きな問題となっている。

また、ダムからは放流量ガイドラインに則った維持放流が行われているものの、下流の減水区間においては、アユの生育不足等が発生し、地元からは維持放流量の増加を望む声大きい。

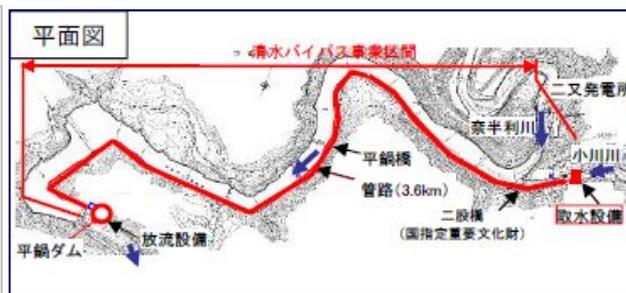
〈目標〉

本来の奈半利川が持つ豊かな水量を復元することで、川を中心とした町村の歴史的景観や、アユ等の川に暮らす生態系の保全・復元に繋げることを目指し、清水バイパスを設置する。

(具体的な目標量：基準点での夏季における放流量+0.86m³/s)

取り組み内容・対策例

奈半利川の支川である小川川より、澄んだ水を取水し、電発3ダム内の、最下流に位置する平鍋ダム下流に放流することで、下流河川の濁度超過日数の低減と、減水区間の改善を図る。



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

(濁水について)

濁水改善については、アユの摂餌行動に抑制が生じ始める濁度10を基準とした。

清水バイパスの設置により、過去洪水での基準点における濁度10以下となる日数を128日増やすことが可能とのシミュレーション結果が得られている。

(減水について)

清水バイパスの設置により、水面積が9%増加し、アユの生息数が43%増加することが可能とのシミュレーション結果が得られている。

(今後の対応方針)

H28年度に事業化され、現在現地施工を実施中。完成後も継続的なモニタリングを行い、下流河川の改善状況について逐次把握していく計画としている。

備考

問い合わせ先	高知県 工務部 河川課
電話番号	088-823-9843

奈半利川の濁水対策について

～清水BP事業による河川再生に向けた取り組み～

Keywords : 流下能力の確保, 水環境の改善, 縦断的連続性の再生

● Before

減水区間の状況



洪水時の濁水状況



● After

清水バイパスにより、豊富な水量のある、美しい河川への再生を目指す！



奈半利川では、流水の減少や洪水時濁水の長期化による河川環境の悪化により、観光資源など地域経済への影響や人と川との共生が損なわれ、社会的な問題となっている。

そこで、支川の小川川から清水を取水し、下流に放流する清水バイパスを設置することにより、減水区間の改善や濁水の早期低減を果たし良好な河川環境の再生を行うことを目標とした事業を実施する。